

台湾の大型機械鑄造の大手企業永冠能源科技グループ

永冠能源科技集团有限公司(以下永冠)は台湾の著名な大型鑄造メーカーである。世界的に洋上風力発電建設が進むなか、世界のサプライチェーンにおいて台湾国内唯一の風力発電設備鑄造供給能力を備えるメーカーとしての役割を果たしている。今回は張董事長を訪問し、永冠の事業状況や経営戦略、将来の発展計画についてお話を伺った。



永冠能源科技集团有限公司 張董事長

台湾の大型鑄造品製造の大手サプライヤー

1971年に永冠を設立してから既に48年が経ち、台湾を代表する大型鑄造品製造の大手サプライヤーの一つとなった。1992年に中国で発展した後、徐々に生産拠点を拡大し、現在では台湾・江蘇・溧陽・上海・東莞・寧波など六ヶ所に生産拠点をもち世界的ハイエンド設備企業である主要顧客を囲い込んでおり、2018年の連結売上高は62億台湾元(日本円で約213億円)となっている。事業発展の主な理由は大型鑄造品に集中し製造したこととあり、小型鑄造品市場と距離を置き、顧客との競合を避けるため完成品機械市場には参入せず、多品種少量・カスタマイズの発展戦略で顧客からの信頼を得たところにあった。

永冠の強みは垂直と水平の両方からの全体的なソリューションが提供できることであり、共同設計・金型製作・鑄造・後処理検査・鑄造加工・腐食防止スプレーコーティング・製品組立から3座標検査に至るまで、ワンストップですべてのサービスを提供することができる。年間の合計生産能力は20万トンに達しており、豊富な供給実績と顧客要求に合致する品質基準から顧客信頼を得ている。単一窓口による対応・幅広い生産拠点の方式を取ることで、顧客の管理コストを簡易化し、より顧客に寄り添ったサービスを提供している。

ニッチな大型鑄造品事業への参入

市場でワンストップ式のカスタマイズサービスで差別化をはかる戦略の下、永冠は再生エネルギー、プラスチック射出成型機械、産業機械を三大事業としている。

再生エネルギー事業の主要製品はハブホイール・ナセルベース・ベアリングシャフト・固定シャフトなどの大型鑄造物で、フランジ・トルクアーム・プラネットサポート・ギアボックスカバーやケースなどの部品類の生産能力もそなえており、8MWレベルの鑄造品生産技術の他、10MWや12MWのファンの大型化トレンドに応えるべく関連技術発展や生産能力拡大に協力しており、シーメンスガメサ・上海電気・MHIヴェスタス・遠景能源などの世界的大企業が主要顧客となっている。

プラスチック射出成型機事業の主要製品はヘッドプレート(固定プレート)・可動プレート・テールプレート・オイルシリンダー・インジェクションガン等で、主要顧客は日本精密・住友重機械工業プラスチック機械事業部・エンゲルなどの世界的大企業である。産業機械事業は顧客要求に柔軟に対応しており、エアコンプレッサー・船舶エンジン・水道バルブ・医療および輸送機器等各産業領域の特殊要求に応じたカスタマイズサービスを提供している。主要顧客は三菱重工・森精機・ロールスロイス・シュウラー・ビューラーなどの世界的大企業である。

台湾トップ企業

洋上風力発電の世界的発展トレンドと国産化政策を先取りし、生産拠点建設で生産能力拡充

洋上風力発電が世界で積極的な発展をみせている現在、永冠は台湾で唯一世界規模のサプライチェーンで風車用大型鋳造品を提供できるサプライヤーである。台湾の再生エネルギー発展と洋上風力発電の国産化政策推進に対応すべく、永冠は近年台中港で20ヘクタールの土地を借り受け、50億元を投資して鋳造・加工・スプレー加工の生産ライン工場を立ち上げ、同時にシーメンスガメサ・AH Industriesと機械加工能力の国産化強化のための協力覚書(MOU)を締結した。洋上風力発電機のグリッド化計画日程に協力するため、永冠は2023年から2025年までの間に合計で47,686トン、310セットの鋳造品の提供を予定しており、中長期では政府による2026年から2035年まで毎年1GWの開発計画に合わせ、受注獲得努力を継続し、合計176,000トン、1000セットの鋳造品の提供を目指している。

世界のサプライチェーン変動トレンドに柔軟に対応、産業機械生産ラインを世界規模で展開・調整

過去において永冠は積極的に中国工場設置を進めてきたが、中国の製造業景気が悪化し、人件費増加・環境保護規制の強化・中米貿易摩擦による関税影響などの背景の下、永冠は世界規模のサプライチェーンを調整する戦略を打ち出している。2014年にはタイのチョンブリー県バーンブン郡に30万坪の土地を取得し、環境アセスメント(EIA)を通過しただけでなく、タイ政府からの8年間免税の投資優遇を獲得した。そのうち、土地の一部は産業機械生産ラインの拡張に使用し、全面的な自動化生産設備導入で、産業競争力とリスク対応能力の強化を図る。2021年に生産ライン建設を予定しており、2023年に生産開始予定で、残りの土地は工業区開発計画に使用する予定である。

生産能力拡大と生産効率向上のため、日本企業との協業機会が増加

永冠は過去プラスチック射出成型機・産業機械分野で日本各産業の大手企業との協業で豊富な経験があり、売上全体の10%以上を占める。台湾とタイの工場拠点建設に伴い、プラス

チック射出成型機械の製造能力とその優位性をさらに強固なものとし、またカスタマイズと差別化の発展戦略をはかるため顧客に対しあらゆる方向でのソリューションを提供し、大型鋳造品の製造要求などの関連産業での高度な協業可能性があると考えている。

再生エネルギー事業に関しては、永冠は初期に中国風力発電市場に進出していたため、風車鋳造技術蓄積が成熟しており、近年のグリーンエネルギーや洋上風力発電国産化政策推進に合わせ、台湾への工場回帰も積極的に進めている。台湾の洋上風力発電政策は北東アジア・東南アジア各国に先駆けて推進されており、将来の日本での洋上風力発電建設に合わせて、永冠は合理的コストでの高品質製品提供を通じて、風車開発コストを低減し、利益向上の実現を目指している。

この他、タイのチョンブリー県バーンブン郡工業区は日台企業協業の潜在目標でもあり、タイで最重要の国際貨物ハブ港であるレムチャバン港(Laem Chabang)から車で一時間以内の距離と交通アクセスも良く、タイに工場を建設する日本企業や、工業区デベロッパーなどは、さらなるビジネスチャンスが期待できる。

(※今月は口語形式ではなくインタビューをまとめたレポート形式としている。)

永冠能源科技集團有限公司の基本データ

会社名	永冠能源科技集團有限公司
代表	張賢銘(董事長)
設立	2007年11月
資本金	448,366万台湾元
売上高	79 億台湾元(2019年予測)
社員数	2,416名(うち台湾 135名)
事業内容	風力発電機・プラスチック射出成型機・産業機械鋳造品製造

注)2020年1月の情報による
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理